栗駒山の火山活動解説資料（平成 21 年 12 月）

仙 台 管 区 気 象 台
火山監視・情報センター

火山活動に特段の変化はなく、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は見られません。
平成 19 年 12 月 1 日に噴火予報（平常）を発表しました。その後、予報警報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・噴気など表面現象の状況（図２～４）

１日に陸上自衛隊東北方面総監部の協力を得て実施した上空から観測では、ゆげ山、旧火口付近、ゼッタ沢、昭和湖付近の噴気や地表面温度分布[1)]の状況に特段の変化は認められませんでした。

１）赤外熱映像装置による。赤外熱映像装置は物体が放射する赤外線を感知して温度分布を測定する測器です。熱源から離れた場所から測定することができる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合があります。

・地震や微動の発生状況（図５～６）

栗駒山を震源とする地震活動は低調な状態が続いています。火山性微動は観測されませんでした。

なお、栗駒山の近傍では、2008 年６月 14 日に発生した「平成 20 年（2008 年）岩手・宮城内陸地震」（M7.2）の余震活動が続いています。

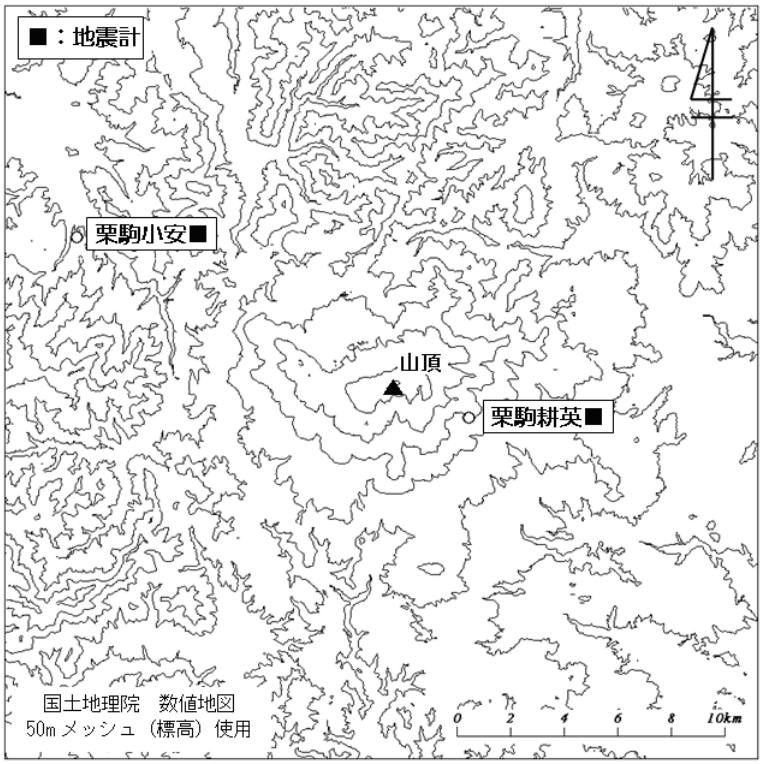

図１　栗駒山　観測点配置図

この火山活動解説資料は、仙台管区気象台のホームページ（http://www.jma-net.go.jp/sendai/）や、気象庁ホームページ（http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html）でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成 22 年１月分）は平成 22 年２月５日に発表する予定です。

※資料は、気象庁のデータの他、東北大学、独立行政法人防災科学技術研究所のデータを利用して作成しています。

本資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の「数値地図 50m メッシュ（標高）」を使用しています（承認番号　平 20 業使、第 385 号）。

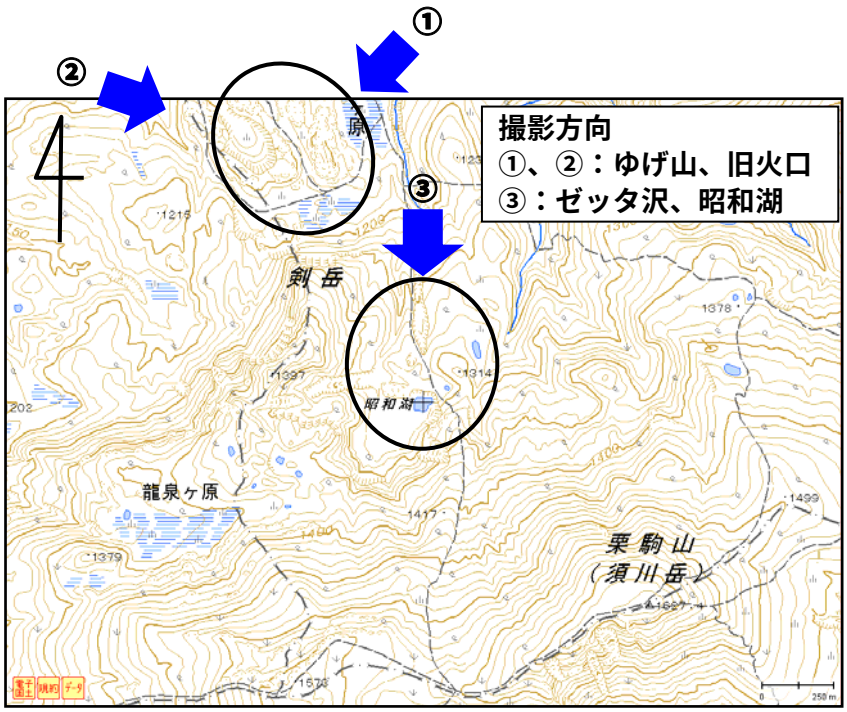

図２　栗駒山　上空からの撮影ポイントと撮影方向

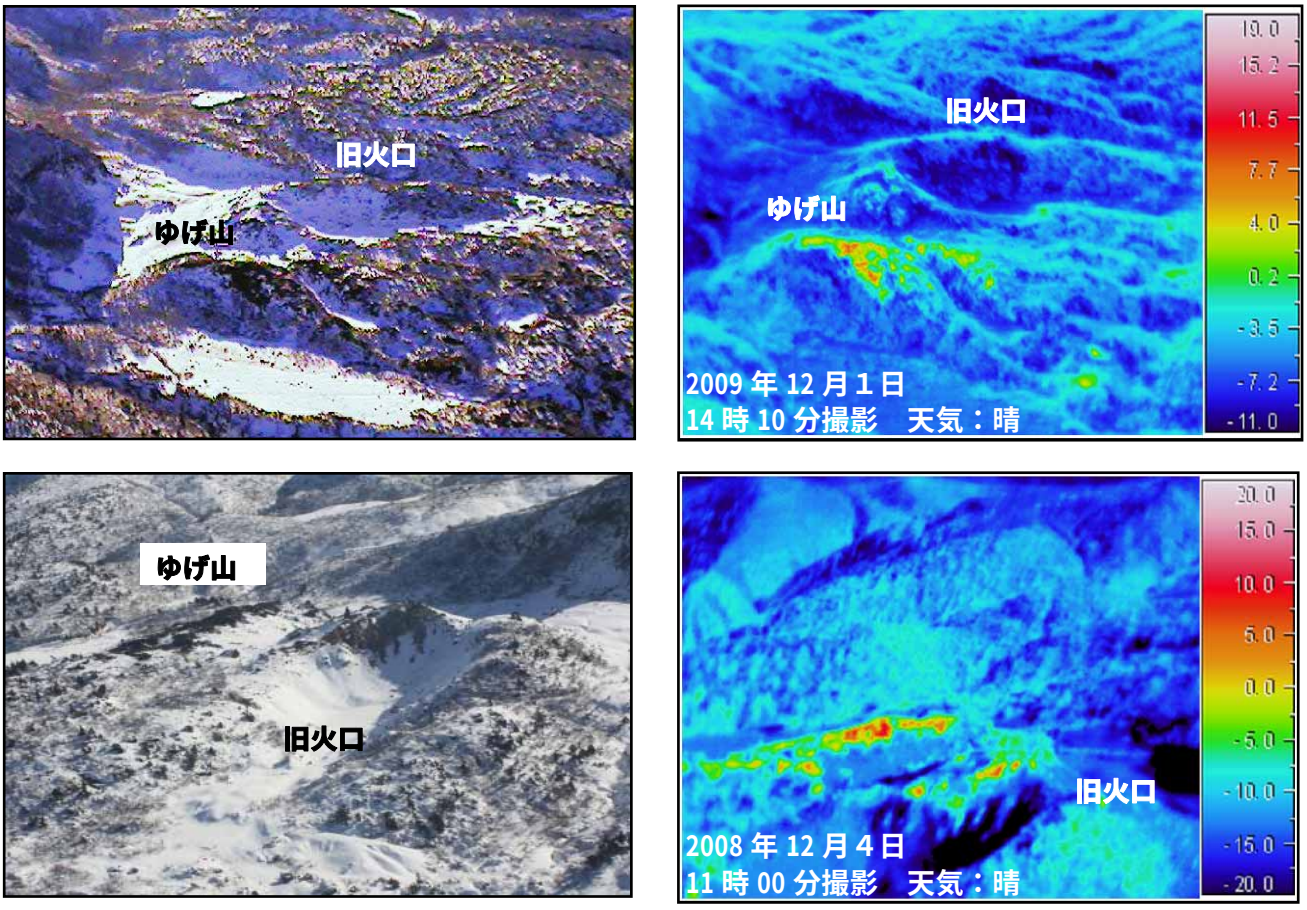

図３　栗駒山　ゆげ山、旧火口付近の可視画像（左）と地表面温度分布[1)]（右）
上段：2009 年 12 月 1 日、撮影方向①
下段：2008 年 12 月 4 日、撮影方向②

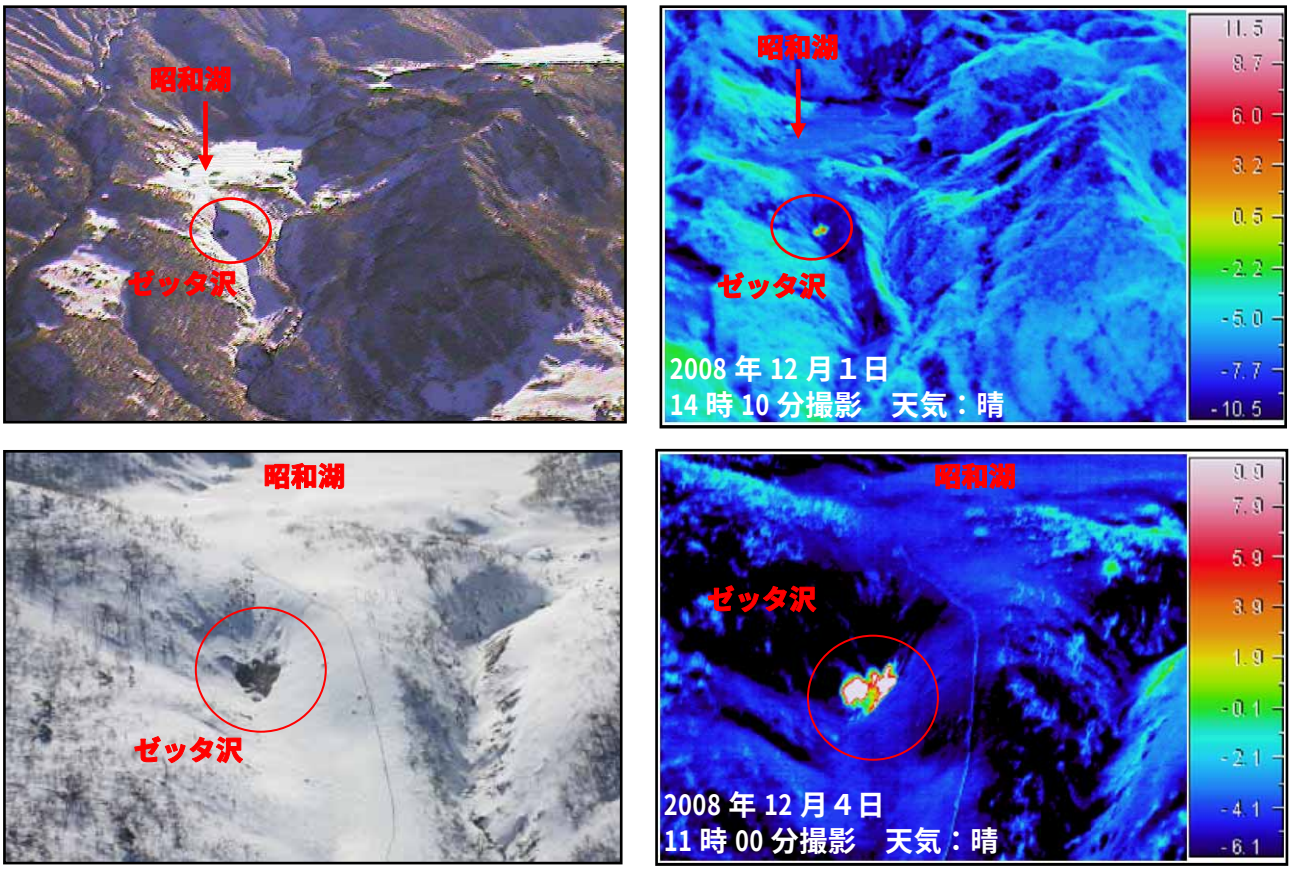

図４　栗駒山　ゼッタ沢、昭和湖付近の可視画像（左）と地表面温度分布[1)]（右）
上段：2009 年 12 月１日、撮影方向③
下段：2008 年 12 月４日、撮影方向③

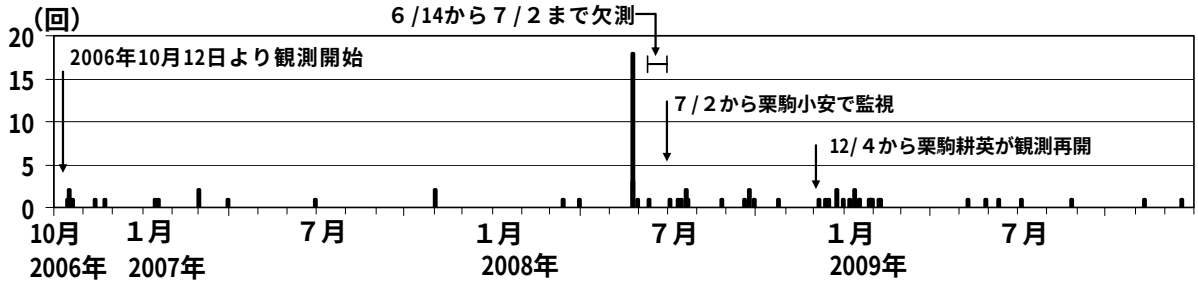

図５　栗駒山　日別地震回数（2006 年 10 月～2009 年 12 月）

2006 年 10 月 12 日から観測開始。

栗駒山の火山監視用の「栗駒耕英（こうえい）」観測点は、2008 年６月 14 日の「平成 20 年(2008 年)岩手・宮城内陸地震」の影響により観測不能となっていましたが、12 月４日に復旧しました。７月２日 18 時から山頂の北西約 10㎞ に設置した「栗駒小安（おやす）」と合わせて監視を行っています（図１）。

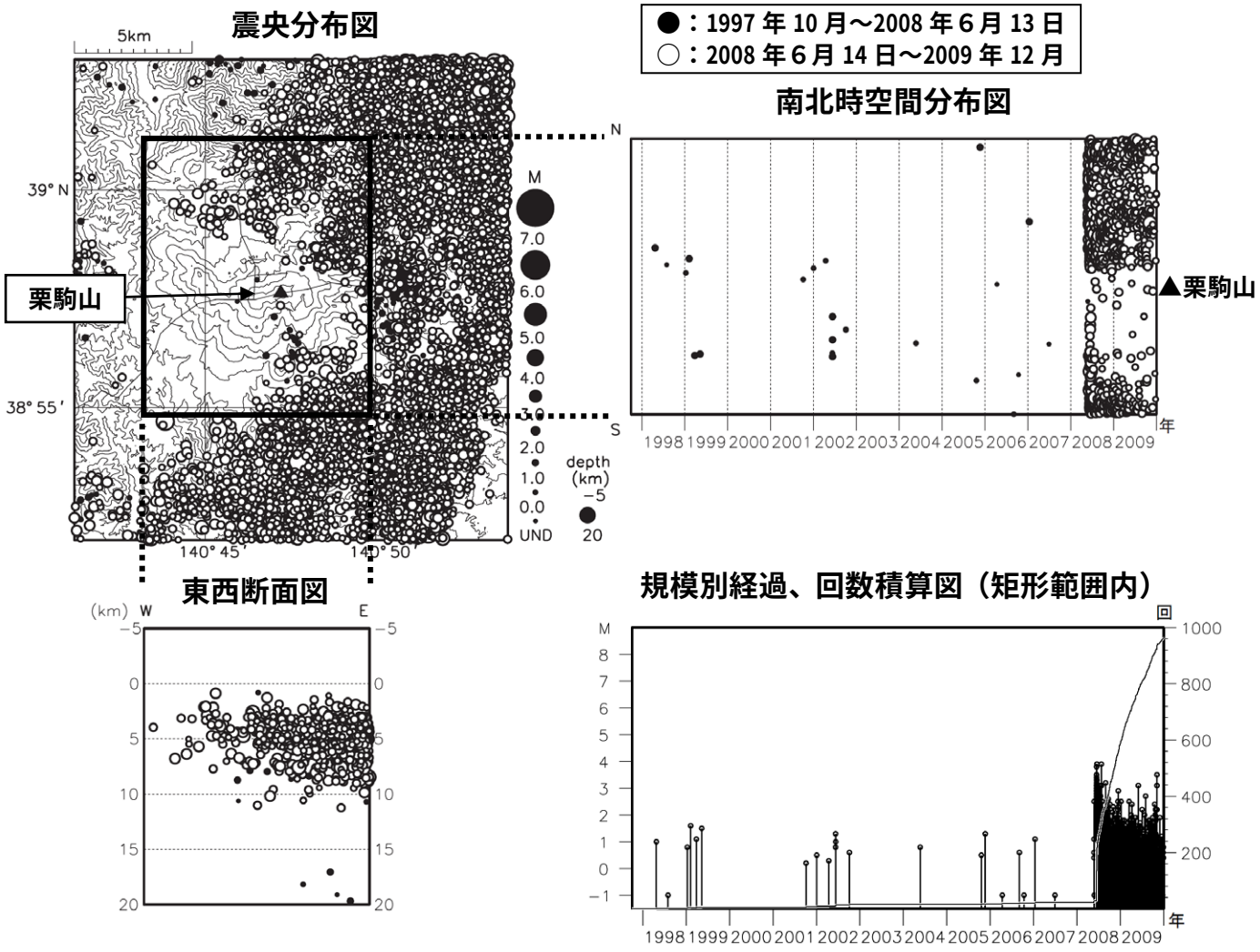

図６※　栗駒山周辺の地震活動（1997 年 10 月～2009 年 12 月）

注）2001 年 10 月以降、検知能力が向上しています。

Ｍ（マグニチュード）は地震の規模を示します。

図中の一部の震源要素は暫定値で、後日変更することがあります。